

経営比較分析表（令和6年度決算）

熊本県 大津町

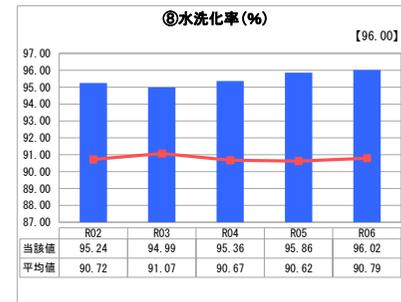
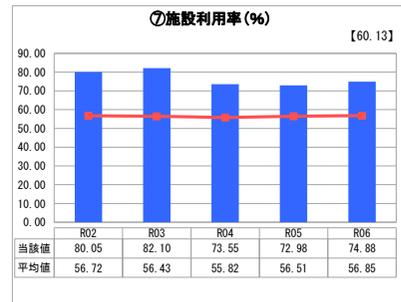
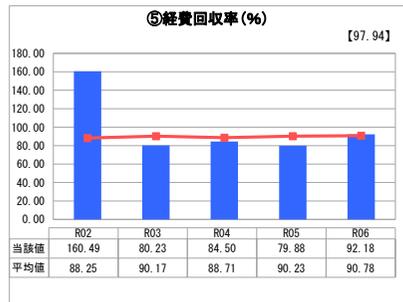
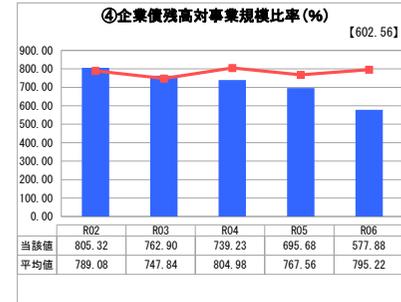
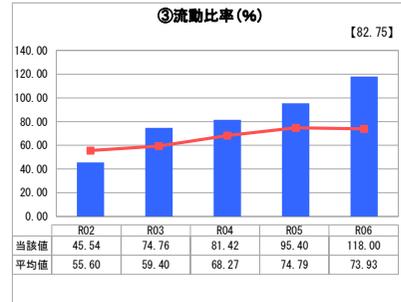
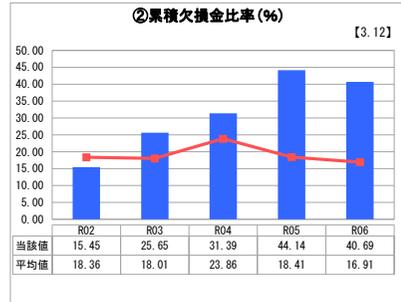
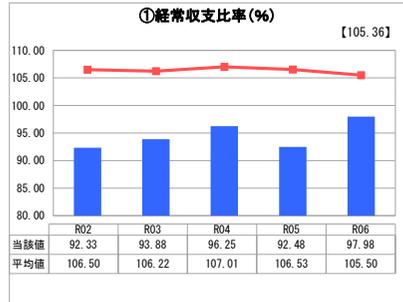
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	73.04	78.34	100.00	2,520

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
36,343	99.10	366.73
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
28,569	7.31	3,908.21

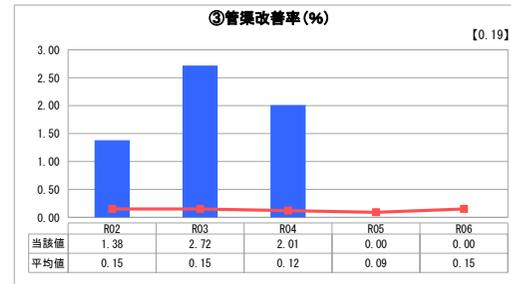
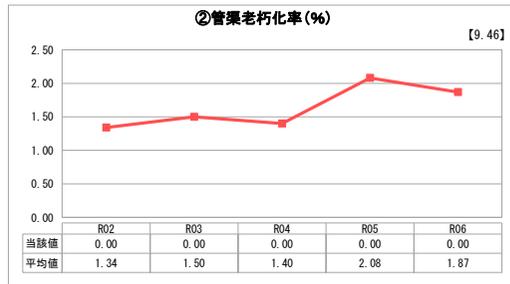
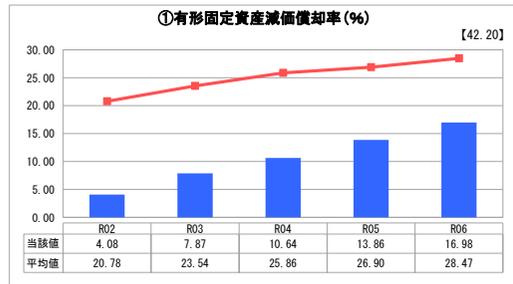
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、⑤経費回収率
 経常収支比率は類団と比較して低く97.98%であり、経費回収率も92.18%と賸えていないが、令和6年4月使用分から使用料を15%値上げしたことで経営改善を図ることができた。

③流動比率

短期的な債務に対する支払能力が類団より44ポイント程度高い状況。ただし、流動資産に含まれる前払金は固定資産の取得に要するものであり、これを除くと依然として100%を下回っている。その要因は償還元金であるが、翌年度に一般会計出資で補填している。

④企業債残高対事業規模比率
 類団比較で217ポイント程度低い状況であるが、今後は処理場の水処理施設増設や老朽化設備の更新などにより上昇していく見込み。

⑥汚水処理原価

前年比で3円低くなっているが、これは物価上昇等により経費額が増加したものの、半導体関連企業の排水量増により有収水量が増加したことが主な要因である。今後も継続して経費削減や接続率の向上に努める。

⑦施設利用率

今後、処理水量の増加を見込んでおり、令和7年度から4系目の増設増強工事を実施予定である。

2. 老朽化の状況について

定期的に点検調査を行い、令和元年度に策定したストックマネジメント計画による、緊急性等の優先順位に基づき効率的な老朽化対策を行い、安心・安全の確保に努める。なお、令和2年度から公営企業会計に移行したことにより指標上は良好であるが、実態として機械装置は老朽化が進んでいる状況である。

全体総括

維持管理と改築更新、経営の効率化と健全化を図るため、令和2年度から公営企業会計に移行し、経営状況の明確化が図られている。

令和6年4月使用分から平均15%の料金値上げを実施したが、令和6年度中に見直した「下水道事業経営戦略」において、老朽化施設の更新により定期的に使用料を改定する必要があると示している。今後の更新投資等に備えるため、適正な料金体系を構築し効率的で健全な経営に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。